

|         |                    |         |                   |
|---------|--------------------|---------|-------------------|
| 授 業 科 目 | 装具学Ⅴ               |         |                   |
| 教 育 内 容 | 専門分野               | 応用義肢装具学 |                   |
| 担 当 教 員 | 星野元訓、丸山貴之、中村喜彦、大谷巧 |         |                   |
| 学 年     | 3                  | 単 位 数   | 3                 |
| 開 講 時 期 | 前期（月曜日Ⅰ - Ⅳ限）      | 時 間 数   | 講義 30 時間 演習 90 時間 |

## ■ 授 業 概 要

本科目は、「靴型装具」「側弯症用装具」「座位保持装置」の3プロジェクトより構成され、それぞれの補装具の疾患に対する適合理論、製作技術を習得する。

### <靴型装具>

第1回－32回において開講する。本プロジェクトでは、靴型装具の製靴工程についての技術を習得し、疾患に応じた製靴方法も理解する。2年次の装具学Ⅲにおける靴型装具の学習内容を理解していることを前提に講義・実習を進める。

製甲のデザインから縫製そして底付まで、疾患を理解しそのうえで靴型装具のデザイン・製作を行えるよう技術を習得する。

### <側弯症用装具>

第33回－48回において開講する。側弯症、および装具療法について学習する。健常学生をモデルに2種類（ミルウォーキー型、ボストン型）の側弯症用装具の採型から適合を通して、側弯症用装具における矯正理論や製作方法を習得する。併せて様々な種類の側弯症用装具の種類と特徴を習得する。

### <座位保持装置>

第49回－64回において開講する。シーティングにおける座位姿勢保持に関する理論、および座位保持装置の種類、各種の構成要素や疾患に応じた適応について学習する。また、採寸・採型によるモールド型クッションの製作技術を習得する。

## ■ 到 達 目 標

### <靴型装具>

- 1) 靴型装具の製靴工程について理解し実践できる。
- 2) 靴型装具を必要とする疾患、障害に適応した製靴法について理解する。

### <側弯症用装具>

- 1) 側弯症の疾患上の特徴、および側弯用装具による装具療法の理論を理解する。
- 2) 側弯症用装具の製作・適合技術を理解する。

### <座位保持装置>

- 1) 関連疾患や高齢者における座位の問題点に対するシーティングについて理解する。
- 2) 座位保持装置の種類、適応、適合方法を理解する。
- 3) モールド型の製作方法を理解し、実践できる。

## ■ 授 業 内 容

|       | 内 容              |                                              | 担当教員        |
|-------|------------------|----------------------------------------------|-------------|
| 第1-4回 | 靴<br>型<br>装<br>具 | 【講義】オリエンテーション、「靴型装具の製靴工程」（第1・2回）<br>【実習】靴型修正 | 丸山貴之<br>大谷巧 |
| 第5-8回 |                  | 【実習】フットベッド補強、アッパーデザイン・パターンデザイン               |             |

|           |                            |                                                              |              |
|-----------|----------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------|
| 第 9-12 回  | 靴型装具                       | 【講義】「靴のパターンデザイン法」(第 11-12 回)<br>【実習】パターンデザイン、型紙作成            | 丸山貴之<br>大谷巧  |
| 第 13-16 回 |                            | 【実習】アッパー製作(皮革切り出し、端面処理) 部品作成                                 |              |
| 第 17-20 回 |                            | 【実習】アッパー製作(縫製)、つり込み                                          |              |
| 第 21-24 回 |                            | 【実習】つり込み                                                     |              |
| 第 25-28 回 |                            | 【実習】細革、シャンク取付け底付け、                                           |              |
| 第 29-32 回 |                            | 【実習】仕上げ、評価<br>【講義】「靴型装具の適合」(第 30 回)<br>「糖尿病足病変と靴型装具」(第 32 回) |              |
| 第 33-36 回 | 側<br>弯<br>症<br>用<br>装<br>具 | 【講義】「側弯症と装具療法」(第 33-34 回)<br>【実習】側弯症用装具採型、陽性モデル製作            | 星野元訓<br>中村喜彦 |
| 第 37-40 回 |                            | 【講義】陽性モデル修正方法(第 37 回)<br>【実習】陽性モデル修正                         | 星野元訓<br>中村喜彦 |
| 第 41-44 回 |                            | 【実習】側弯症用装具成形・組立                                              |              |
| 第 45-48 回 |                            | 【講義】「側弯症用装具における適合」(第 45-46 回)<br>【実習】側弯症用装具適合チェック、および修正      | 星野元訓<br>中村喜彦 |
| 第 49-52 回 | 座<br>位<br>保<br>持<br>装<br>置 | 【講義】「座位保持装置概論」(第 49-50 回)<br>【実習】採型器を用いた骨盤・大腿部の採型            | 星野元訓<br>大谷巧  |
| 第 53-56 回 |                            | 【実習】採寸によるモールド型クッションの製作                                       |              |
| 第 57-60 回 |                            | 【実習】採型モデルによるモールド型クッション(座)の製作                                 |              |
| 第 61-64 回 |                            | 【実習】採型モデルによるモールド型クッション(背)の製作<br>【講義】座位保持装置のまとめ(第 63-64 回)    |              |

#### ■ 評価方法

3つの各プロジェクトの総合評価とし、評価配分は次の通りとする。

靴型装具 40%、側弯用装具 30%、座位保持装置 30%

それぞれのプロジェクトの評価配分は次の通りとする。

<靴型装具>

最終試験 50%、実習 50%

<側弯用装具>

最終試験 80%、実習 20%

<座位保持装置>

最終試験 60%、実習 40%

## ■ 教 科 書

装具学 第4版、医歯薬出版

義肢装具のチェックポイント 第9版、医学書院

新編 装具治療マニュアル、医歯薬出版

## ■ 留 意 事 項

最終試験は各プロジェクト別に実施するが、日程は別途指示する。

## ■備考

<講師の実務経験>

星野元訓：当センター病院のシーティングクリニックに 19 年間従事。本学院義肢装具学科の専任教員として 22 年間勤務。

丸山貴之：義肢装具製作施設にて義肢装具士として臨床業務に 5 年間従事。本学院義肢装具学科の専任教員として 16 年間勤務。

中村喜彦：義肢装具製作施設にて義肢装具士として臨床業務に 5 年間従事。本学院義肢装具学科の専任教員として 16 年間勤務。

大谷巧：義肢装具製作施設にて義肢装具士として臨床業務に 15 年間従事。